

【古典文法 助動詞「き・けり」識別①】

問、次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- ① かぐや姫は、罪をつくり給へりければ、かくいやしきおのれがもとに、(竹取物語)
- ② (予想以上に壊れている自分の家を見て) 家に預けたりつる人の心も、荒れたるなりけり。(土佐日記)
- ③ 信濃の国に更級といふ所に、男住みけり。若き時に親死にければ、(大和物語)
- ④ よべは隠れ忍びてあるなりけりと、あはれに添へてをかしきことかぎりなし。(枕草子)
- ⑤ 透垣のただすこし折れ残りたる隠れの方に立ち寄りたまふに、もとより立てる男ありけり。(源氏物語)
- ⑥ 坊の傍らに、大きな榎の木がありければ、人、「榎の木の僧正」とぞ言ひける。(徒然草)
- ⑦ 月のいとはなやかにさし出でたるに、今宵は十五夜なりけりと思し出でて、(源氏物語)
- ⑧ 鵲の渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞ更けにける (小倉百人一首)
- ⑨ 和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、(十訓抄)
- ⑩ いかに思ひ始めけることにか、世の中に物語といふもののあるを、いかで見ばやと思ひつ (更級日記)
- ⑪ 人はいさ心も知らず ふるさとは花ぞ昔の香に匂ひける (古今和歌集)
- ⑫ 石田次郎為久が討ちたてまつりたるぞや。」と名のりければ、今井四郎、いくさしけるが、(平家物語)
- ⑬ と申したまひければ、「朕をば謀るなりけり。」とてこそ泣かせたまひけれ。(大鏡)
- ⑭ と詠みて、夜のほのぼのと明くるに、泣く泣く帰りにけり。(伊勢物語)
- ⑮ 殺さむとしければ、忠明も太刀を抜きて、御堂さまにのぼるに、(宇治拾遺物語)

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮

【古典文法 助動詞「き・けり」識別①】 解答

問、次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- ① かぐや姫は、罪をつくり給へりければ、かくいやしきおのれがもとに、（竹取物語）
- ② （予想以上に壊れている自分の家を見て） 家に預けたりつる人の心も、荒れたるなりけり。（土佐日記）
- ③ 信濃の国に更級といふ所に、男住みけり。若き時に親死にければ、（大和物語）
- ④ よべは隠れ忍びてあるなりけりと、あはれに添へてをかしきことかぎりなし。（枕草子）
- ⑤ 透垣のただすこし折れ残りたる隠れの方に立ち寄りたまふに、もとより立てる男ありけり。（源氏物語）
- ⑥ 坊の傍らに、大きな榎の木がありければ、人、「榎の木の僧正」とぞ言ひける。（徒然草）
- ⑦ 月のいとはなやかにさし出でたるに、今宵は十五夜なりけりと思し出でて、（源氏物語）
- ⑧ 鵲の渡る橋に置く霜の白きを見れば夜ぞ更けにける（小倉百人一首）
- ⑨ 和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、（十訓抄）
- ⑩ いかにも思ひ始めけることにか、世の中に物語といふもののあるを、いかで見ばやと思ひつ（更級日記）
- ⑪ 人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香に匂ひける（古今和歌集）
- ⑫ 石田次郎為久が討ちたてまつりたるぞや。」と名のりければ、今井四郎、いくさしけるが、（平家物語）
- ⑬ と申したまひければ、「朕をば謀るなりけり。」とてこそ泣かせたまひけれ。（大鏡）
- ⑭ と詠みて、夜のほのぼのと明くるに、泣く泣く帰りにけり。（伊勢物語）
- ⑮ 殺さむとしかければ、忠明も太刀を抜きて、御堂さまにのぼるに、（宇治拾遺物語）

① 過去	② 詠嘆	③ 過去	④ 詠嘆	⑤ 過去
⑥ 過去	⑦ 詠嘆	⑧ 詠嘆	⑨ 過去	⑩ 過去
⑪ 詠嘆	⑫ 過去	⑬ 詠嘆	⑭ 過去	⑮ 過去